



© 水島新司

# 全国少年少女野球教室 第20回大会記念イベント キャッチボールリレー競争 実施の手引き(最終版)



公益社団法人 全国野球振興会  
(日本プロ野球OBクラブ)

<http://www.obclub.or.jp>

## 準備物

-  ボール : キャッチボールリレー1チームにつき1個
-  コーン または ライン引き 等 : キャッチボールリレー間隔(基本7m)を示せるものをご用意ください
-  ストップウォッチ : 必要な場合、ご用意ください

## 手順

### <実施前>

参加受講者数・参加チーム数等、お時間や会場の広さによって適切な数をお決めください



キャッチボールリレー実施スケジュールを決めてください(野球教室最後に実施、キャッチボール指導終了後そのままチームごとに整列して実施等)



総合審判、各チームを判定する審判、受講者誘導係等、必要な役割を分担してください

### <実施>

受講者誘導／整列／キャッチボールリレー間隔の設置



受講者へ説明



講師によるデモンストレーション



競争開始

### <実施後>

優勝したチームに講師より賞品贈呈(閉会式の際に贈呈していただいても問題ございません)

## 基本ルール／実施にあたっての留意事項

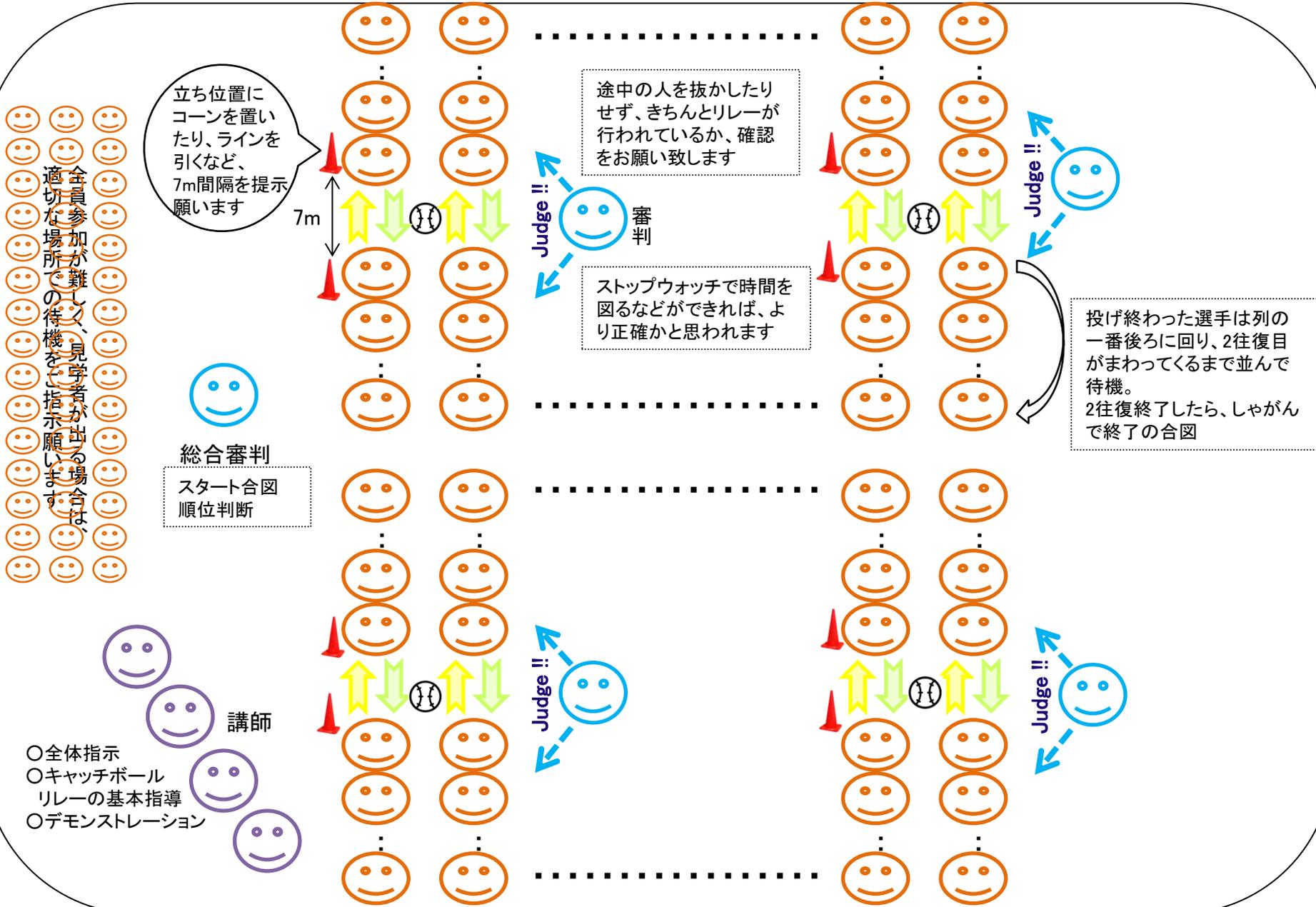
- ① 1番初めに投げ始めた先頭の選手がわかるよう、各チーム先頭の選手のみ帽子を着用する  
先頭の選手以外は帽子を着用しない  
1チームあたりの選手数が奇数の場合は、2つに分かれたうち、奇数人数の方の先頭選手のみが帽子を着用する  
●例：9人1チームの場合●



- ① リレーを“**2往復**”し、帽子をかぶった先頭の選手が最後にボールをキャッチした時点で終了とする。終了したチームはしゃがんで終了の合図とする
- ① 参加者が小学生～中学生と幅広く、力の差がある場合は、中学生を「3往復にする／間隔を小学生よりも広げる／1チーム当たりの人数を増やす」等、ハンデを付けて競うとよいと思います
- ① 各開催地のご状況により、やり方や参加者数等カスタマイズして実施いただけたいと思います  
【例】  
会場が狭い場合：1回あたりの参加チームを少なくし、トーナメント制を採用する  
参加チームを限定する  
参加人数が少ない場合：1チーム当たりの人数を減らし、リレーの往復数を増やす  
学校単位、地区単位等、混成チームにする

☆各都道府県内で1番を決める競争です。各開催地内で公平性が保たれるご状況であれば問題ございませんので、各開催地のご状況に合わせてルール設定をしていただけたいと思います

# 実施例



☆実施イメージ☆

